

中国太郎の発掘日記

島根県埋蔵文化財調査センター
江の川改修発掘調査事務所
TEL 0855-54-0630

江の川沿岸は、古くから山陰と山陽をつなぐ交通の要所として数多くの遺跡が知られています。

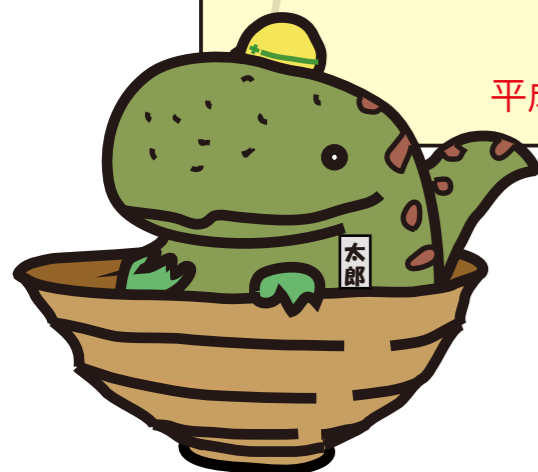
島根県埋蔵文化財調査センターでは、江の川河川改修事業に伴い、今年度の5月から江津市内の2か所で発掘調査を開始しました。今後の調査の様子や発見された遺跡の情報などを、江の川にちなんだ発掘調査通信『中国太郎の発掘日記』を通じてお知らせしていきます。

みなさまには、地元の遺跡に関心を持っていただくとともに、調査へのご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

今後の調査成果にご期待ください！



平成29年度の発掘調査箇所



タローくん

【安全のためのお願い】

発掘現場は深く掘り下げた場所があり、たいへん危険です。事故防止のため、無断で立ち入らないようにお願いします。

【遺跡見学について】

発掘に興味のある方や、社会科や総合的な学習での見学希望は調査事務所で随時受け付けております。上記連絡先までご連絡ください。

森原神田川（もりはらじんであわ）遺跡の発掘調査

○所在地：江津市松川町太田

○調査面積：約2,300㎡

○調査予定期間：5月～12月末

○調査状況

現在、地表面から約1.5mの深さの地層を調査中です。地層からは江戸時代前期(17世紀前半)の陶磁器が出土しており、その下層から同じ時期かそれ以前と思われる水田跡が明らかになりつつあります。



調査が進む森原神田川遺跡

田淵（たぶち）遺跡の発掘調査

○所在地：江津市川平町南川上

○調査面積：約800㎡

○調査予定期間：5月～9月

○調査状況

鎌倉時代から室町時代にかけての土器や土錘(どすい：刺し網漁などで使われる土製の錘)などが出土しています。また、中国で作られた青磁の碗や青白磁の合子(ごうす：蓋付きの小型の入れ物。お香などを入れた)の破片が見つっています。

遺跡には2m以上土砂が堆積しており、所々に薄く川砂層や粘土層が混じることから、江の川の氾濫によって度々冠水していた様子を知ることができます。



(左) 深く積もった田淵遺跡の土砂の様子
(右) 折り重なって見つかった土器。素焼きの碗や皿がたくさん